

ICT 教育活用 News

Vol.5 2015 年 8 月発行

OliveClass/iPad/BeeDance

事例紹介

法学部：原口 佳誠 先生
(現：情報科学センター運営委員)
科目名：ゼミナール(複数クラス)
履修者数： 10～13名



■ OliveClass

1. OliveClass を利用されたきっかけを教えてください。

きっかけは、講義を履修している学生と連絡をとるために、「お知らせ発信」機能を利用したことです。この機能は、学生のメールアドレスを設定することなく、履修学生にすぐにお知らせを送ることができ、とても便利です。

—知識の定着化—

2. 現在 OliveClass をどのように利用されていますか。

毎回の授業で使用するレジユメを、OliveClass の「資料教材」機能を利用して掲載しています。レジユメは「穴埋め式」にして、学生が授業中に適宜筆記することで集中力を保ち、知識を着実に習得できるようにしています。また、講義ではパソコン教室ではなく通常教室を使用するため、レジユメは教員側がプリントアウトして学生に配布しています。欠席者への対応としては、学生が各自で教材を OliveClass からダウンロードしてプリントアウトできるようにしています。

また、補講や小テストの予定の告知や定期試験の解説などは、「お知らせ発信」機能を利用して学生に伝達するようにしています。他の大学では、定期試験の解説をウェブサイトで行う例もみられますが、大学とは

無関係の人が閲覧できたり、逆に学生が閲覧自体をしなかったりする欠点があります。この点、「お知らせ発信」機能は、学内の学生のみを対象にし、かつ学生が確実に受信できるのが大きな利点です。

3. OliveClass を利用して、効果があったと感じる点がありますか。

授業進行がとてもスムーズになりました。「お知らせ発信」機能で授業予定やテストの告知を行い、定期試験の解説をフィードバックするサイクルに、学生も少しずつ慣れてきました。

学生は、授業に欠席した場合も、次回の授業を待つ必要がなく、OliveClass に掲載されているレジユメをすぐに確認できるため、学習意欲が薄れる前に授業での遅れを取り戻すことができます。

昨年度の定期試験結果をみても、授業で行った内容を学生がしっかりと身につけているのが分かります。学生による授業評価アンケートの結果も概ね好評です。

—手厚いサポート—

4. 使っていて便利な点は何でしょうか。

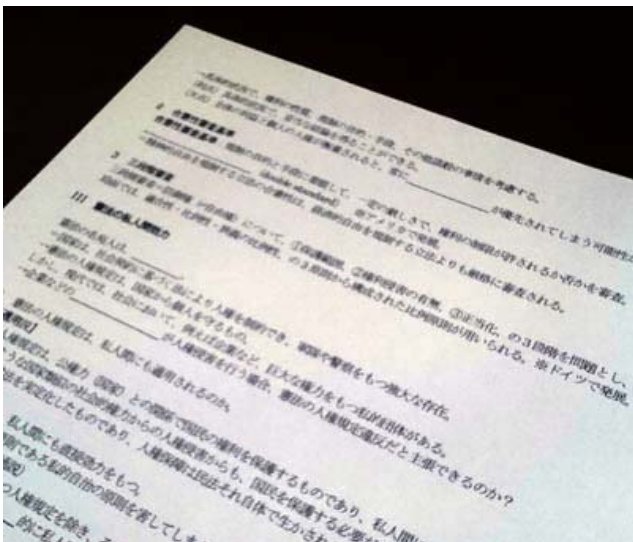
「お知らせ発信」機能が特に便利です。履修者全員に、瞬時に、かつ公式に伝達することができるのが便利です。(裏面に続く)

さらに、欠席者に個別に連絡を取ることから、少人数教育でのフォローアップに役立っています。

また、個人のメールアドレスを扱わずに済むことは、個人情報にも配慮されており、大変ありがたいと思います。

5. 学生からの声

授業内で学生に毎回配布しているミニツツペーパー（質問票）の回答で、「レジュメは必ず OliveClass にアップロードしてほしい」という要望や、「いつレジュメがアップロードされるのか」という質問が多くありました。OliveClass は学生にとっても分かりやすく、整理しやすいツールであるようです。



授業で使用しているレジュメ

6. 今後の OliveClass の活用について

今後は、教員から学生に対して伝達する一方の補助的ツールとしてだけでなく、学生の主体的な学習を促す双方向の講義を確立するため、より積極的に活用していきたいと考えています。

他の先生からは、レジュメを自分で印刷して持参させることで学生の自主性を高める、という話を伺いました。現在、穴埋め式のレジュメは、PDF 形式で「資料教材」として OliveClass に掲載し、それを授業で配布しています。秋学

期からは、それを Word 形式で掲載して、学生が回答を直接打ち込んで提出する、というように「レポート教材」機能をより応用的に利用してみたいと考えています。

また、現在、授業で配布しているミニツツペーパーについても、OliveClass で活用してみようと考えています。

秋学期には、「テスト機能」を利用して、学生が授業で得た知識をより確実に習得できるように、何度でも受験できる設定にして、復習テストを実施してみたいです。

原口先生の授業では、授業を履修していないにもかかわらず、許可を得て授業を聴講して、OliveClass からレジュメをダウンロードして閲覧している学生もいるそうです。このように、先生の分かりやすい授業と手厚いサポートが、学生の学習意欲を向上させているのでしょう。

原口先生のお話を伺っていて、学生の学習効果を上げるための様々な工夫がなされていて、お使いのツールも目的に合わせて使い分けられている点が、学生にしっかり伝わっているのが分かります。それゆえ、授業の流れがスムーズになり、学生に分かりやすく、実際に効果となって結果に現れているのを強く感じました。

今後、OliveClass をさらに積極的に利用したいと考えられているとのこと。もし、学生が自主的に Word 形式のレジュメを授業前に穴埋めをして提出するようになれば、反転授業にもつながっていきます。また、最近では、BeeDance のレスポンス（クリッカー）機能を実際に授業に導入されるなど、アクティブラーニングも取り入れられています（次ページ以降で紹介）。

今後、これらの ICT を用いた授業手法が広がることにより、学生の学習意欲はますます高まっていくことでしょう。

(次ページに続く)

■ iPad/BeeDance

1. 学生参加型のアクティブラーニングを導入されたきっかけをお聞かせください。

文部科学省が推奨しているアクティブラーニングに、もともと興味がありました。これまでの私のゼミナールの授業では、学生が消極的で、質問になかなか答えてくれないこともありました。BeeDance の双方向対話型のレスポンス機能を利用すれば、学生がもっと積極的に回答を発信するのではないかと期待しました。

2. 具体的にどのような授業を展開されていますか。

OliveClass に掲載したレジュメで学生に予習をさせ、その予習の確認として、BeeDance のレスポンス機能を用い、基本的知識の質問を行いました。

また、普段は紙ベースで授業を行っていますが、BeeDance では iPad を利用できるので、授業内容をより視覚化して印象付けられるように授業を再構成しました。具体的には、憲法上のテーマと関連したニュースの画像や映像、Web サイトなどを学生に多数閲覧させました。

3. BeeDance(iPad) を利用して良かった点や学生の反応をお聞かせください。

レスポンス機能を使用して出題すると、学生の解答が瞬時に集計され、視覚化して表示されます。そのため、学生の理解度がすぐに分かりました。

また、学生の回答結果が表示される設定にすると、回答直後に教員にだけ正誤が表示されず、学生間では匿名性が保たれていることから、回答を間違えても恥ずかしくないということに気づき、普段は消極的な学生が積極的に回答している様子がみられました。



授業後に学生から BeeDance を利用した感想を聞いてみると、「面白かった」、「紙だけの授業と違って、実際に機器を操作することで自分が授業に参加している意識をもつことができた」、「授業の体感時間が短く感じた」、などの意見がありました。

4. 学習の進め方で工夫された点はありませんでしょうか。

BeeDance に動画や Web サイトの URL、その他の資料を掲載して、それらとレスポンス機能を組み合わせた授業を構成しました。すべて BeeDance のひとつの画面から行えるようにしたことで、学生もとまどうことなく、授業をスムーズに進めることができました。

学生は、予習してきた基礎知識をレスポンス機能で確認した後に、日本の最高裁判所長官や大法廷判決に関するニュースやアメリカの最高裁判所に関するニュースの映像、さらに最高裁判所の Web サイトを閲覧しました。これにより、最高裁判所に関する憲法上の論点への理解を深め、学んだ知識をより印象づけることができたと思います。

(裏面に続く)

5. 今後どのような授業展開をお考えでしょうか。

今後、大学のカリキュラムとして、アクティブラーニングや反転授業などの手法を取り入れてゆく必要があります。その際に、私の講義やゼミナールでは、OliveClass や BeeDance、さらに iPad 等機器の利用など、ICT の活用を積極的に試みたいといます。学生が、憲法をより効果的に学び、議論し、理解できるような授業設計をしてゆきたいと考えています。

また、法学教育という視点からも、ICT はとても魅力的です。かつてロスコー・パウンド (Roscoe Pound, 1870-1964) が指摘したように、法は現実の社会の文脈でダイナミックに機能するものであり、紙の上の法 (law in books) のみならず、社会で動く法 (law in action) を把握しなければなりません。ICT の利用は、法の条文や学説の理解を容易にするのみならず、法が関わる社会の具体的な事件やニュースを生き生きと視覚化して提示し、それをもとに議論することをうながします。このことは、法を社会的文脈に位置づけ、ダイナミックかつ批判的にとらえてゆくきっかけとなり、




ささやかながら、法学教育の発展につながるのではないかと期待しています。

貴重なお時間をありがとうございます。今後も BeeDance を活用した授業のサポートをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【BeeDance 授業までの道のり】


- Step1 アクティブラーニングの授業を検討
- Step2 情報科学センター運用課に相談、
事前講習受講
- Step3 問題作成に 30 分程度ですぐに授業で活用

■ BeeDance の授業シーン別利用機能




レスポンス

選択式・記述式の小テストが行えます。回答結果を瞬時に集計し、プロジェクタ・電子黒板に投影することができます。




イメージボード

教員から出題された問題を手書きで回答することができます。



テキストボード

画像・動画・音声に対して記述で回答が行えます。



資料配布

予め登録しておいたファイルの共有が行えます。

何かで不明な点がございましたら、情報科学センターまで、お問い合わせ下さい。セミナー等も参加しておりますので、資料もご確認頂けます。

お問い合わせ先

関東学院大学 情報科学センター運用課

外線：045-786-7021 内線：2283

Mail: iscedu@kanto-gakuin.ac.jp